

若水汲み・仁多郡奥出雲町竹崎

令和3年2月22日掲載予定

収録・解説・酒井 董美 イラスト・福本 隆男



https://kanbenosato.com/minwakancho_201201.html

語り手 田和朝子さん（明治40年生まれ）
収録・昭和47年4月30日

あらすじ

昔。あるところにおじいさんとおばあさんがいました。正月の若水を汲みにおばあさんが行って、水を汲んでいたところ、杉の木にヨズクがとまって、
「テレッケホーセー ホー
ホー
テレッケ ホーセー ホー
と鳴くので、
「われはヨズクか、わしや福づくだ」と言っておばあさんが水を汲みました。その水を家へ持って帰って、台所の流しへ置いて、餅を煮て食べるため、その水を汲みに行ったら、水桶の中に白いものがたくさんあるではありませんか。何があるのだろうかと思つてよく見たら、なんとそれは白金（しろきん）ではありませんか。
おばあさんはそれを膳ぜんに置いて、神さまのところへ持って行って飾っていました。そこへ隣のおばあさんがやって来ました。

「まあ、ここにはどげしたことがい。えらいたくさん、銭がああが」と言いますので、その家のおばあさんが、
「そりやあ、おらが若水汲みに行きて、水う汲んなかにヨズクが来て、テレッケ、ホーセー、テレッケ、ホーセー言いもんだけん、『われはヨズクか、わしや福づくだわ』言いて、持つてもどつて流しに置いて餅を煮て食わあと思つたら、ちゃあんといつばい、こうがあつたもんだけん、そうかあ、神さんに飾つちようことだわね」と答えました。
「やあ、こりやいいことを聞いた。おらもほんなら、いんでさげえすうぞ」と隣のおばあさんは、それから、すぐ翌日の朝、水汲みに井戸へ行つて、水を汲んでいたところ、またヨズクが来て、木にとまって、
「テレッケ ホーセー
テレッケ ホーセー
と鳴くので、「われはヨズクか、わしやウズクだわい」と、「福づく」と言うところを聞きまちがえて、「ウズク」だと言つてしまったばつかりに、帰つたらとても体がうずいてとうとうそのおばあさんは死んだそうです。
それで、他人がよいことを

したからといつて、自分も真似をしてよいことをしてやろうと考えることは、まちがいということです。
それで昔「つぼし」。

解説

お宅でうかがつた話である。残念ながら関敬吾博士の『日本昔話大成』にも出ていない単独伝承の話であるが、わが国の昔話に多い隣人タイプをしていることはお分かりいただけると思う。
話の舞台であるが、神との交流が許されるまだ薄暗い早朝に設定されている。
さて、神の使いか、神自体かも知れないフクロウに向かつて、主人公は「われはヨズクか、わしや福づく」と縁起のよい言葉を発し、言霊信仰の作用で幸せになるが、真似をした隣人は「福づく」を間違えて「疼く」と不吉な言葉を言ったため、言霊信仰により不幸な結果を招くのである。
このようにこの昔話は、古代信仰を背景に持ったものなのである。（元島根大学法文学部教授）